

評価のポイント

CL-1.看護実践能力：協働する力 [54-1] アサーションコミュニケーション（事例）

- ・あなたは、胃がん術後の古田さん（76歳男性）を受け持っている。術前から関係性はよい。
- ・術後感染症で臥床期間は長引いたが、現在は回復傾向にある。術後の痛みもなく、状態も安定しているため、シャワー浴開始、離床を進める予定である。
- ・あなたは、古田さんにシャワー浴の説明を行った。古田さんは「今日も体を拭いて欲しい。まだ動きたくない。」「どうして言うことを聞いてくれないんだ！」と怒り始めた。

あなたは古田さんにどう対応しますか？
DESC法を用いてアサーティブに伝えてみましょう。

レポート、またはグループワークなどの議論においては、以下の視点が含まれることが期待される。要約内容を課題結果の評価を行う際の参考にして欲しい。

古田さんに対してアサーティブに対応するために、まずはABCDE理論を用いて思考を整理して欲しい。

A（ものごとを引き起こす出来事）の確認として、「どうして言うことを聞いてくれないんだ！と怒ったこと」に対して、C（結果、問題、悩み、症状など）として、「困った」「信頼されていない」「私では対応できない」などと考える自動思考を引き起こすかもしれない。その際、B（信念、思い込み）を確認する必要がある。自分の信念や思い込みとして、「困った」「信頼されていない」「私では対応できない」などに対して、「怒られる人はダメだ」「怒られるのは自分が悪い」という信念、思い込みがある可能性がある。そこで、D（反証）を実行し、「その考えは思い込みでは？」「事実在即しているの？」と自問自答する。そうすることで、「怒りは古田さんが自分を守るための感情だ」「古田さん自身が自分の大切なことを見逃されたと感じているのかもしれない」ということに気づくことができる。結果的に、E（効果的な新しい信念）として、「古田さんは怒りの表出で助けを私に求めているのかも」「古田さんの怒りの理由を確認して、対応を考えてみよう」となる。

次に、DESC法を使って応答する方法を考える。例としては下記のとおりになるが、この限りではない。DESC法の構成を考えて応答して欲しい。

《例》

Describe（描写する）：「古田さん、何か気になることがあって、辛いんですね。私が気づけなくてすみません」

Explain（説明する）：「いつもと様子が違って心配です」

Specify（提案する）：「動けないと思う心配事を教えてくださいませんか？」

Choose（選択する）：提案の実行による対応「話して下さってありがとうございます。夜が眠れてなかったですね」、不実行による対応「お話できる時はいつでも呼んでください。古田さんがどうすれば元気になれるかを看護チームでも考えますね」

この応答を考えた後、アサーションを支える心の在り方《4つの柱》やアサーションスキルの活用ポイントを用いて、姿勢や態度についても考えてみて欲しい。具体的には、自身がアサーティブに対応するために、古田さんに対して「誠実」「率直」「対等」「自己責任」は、どういうことなのかも考えて欲しい。